

1. 授業を構成するにあたって

学習指導要領改訂に向けた方向性の一つに「『主体的・対話的で深い学び』の実装」が掲げられ、「生きて働く知識及び技能」と「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等」を育む必要性が改めて強調された。これを実現するには、現行の「中学校学習指導要領解説（国語編）」でも課題として指摘されている「依然として教材への依存度が高い」ことを踏まえた授業改善が不可欠だ。教材内容の理解に重点が置かれ、生徒が主体的に言語活動を行う機会が少ない授業では、「“他の学習や生活の場面でも活用できる”知識及び技能」にならず、「“未知の場面でも課題を解決できる”思考力、判断力、表現力等」も育めないだろう。国語科は、言語活動を通して資質能力を育成する教科である。生徒にとって真正性のある言語活動を設定した単元デザインをすることが「『主体的・対話的で深い学び』の実装」に近づく手立てであると考え。そこで、中学1年生の『広告の情報を考える』を扱う単元では、本校の学校公開日に掲示する「島附の広告ポスター」の制作を言語活動に設定し、実践を行った。

2. 「島附の広告ポスター」単元計画（9時間扱い）中学1年生3学級で実践

1 3	・キャッチフレーズ/キャッチコピーとは何かを知り、単元の学習の見通しをもつ。表現の工夫を考える。（1） ・学級で附属島田中学校のキャッチフレーズを考える。（2）
4 6	・個人で、附属島田中学校に関わるキャッチコピーを考える。（1） ・個人で考えたキャッチコピーを、他生徒の対話を通して推敲する。（2）

7 8	・キャッチフレーズとキャッチコピーを使って、附属島田中の広告ポスターを制作する。
9	・制作したポスターを鑑賞し合い、良さを見つける。

3. 授業の実際

1時間目の導入で本単元の言語活動を提示した。自身が学校公開日に参加した時のことを想起する生徒がいたり、教科担当に単元の流れを確認する生徒がいたり、興味をもっている様子が見られた。ポスター制作の目的は島附の魅力を伝えることであり、伝える対象は学校公開日に参加する小学校5,6年生とその保護者と設定した。今回の授業においては、キャッチフレーズを「企業などの理念」を表現するもの、キャッチコピーを「商品やサービスの特徴」を表現するものと定義し、様々な企業や商品のキャッチフレーズ・キャッチコピーをクイズ形式で紹介した。さらに、「注目を集めるフレーズを作るためにできる工夫は？」と投げ掛けると、「リズムを整える」「表現技法(倒置・対句・反復・比喩・体言止め)を使う」「文末表現」「伝えたい相手を意識する」などの気付きが共有された。この気付きは、実際にキャッチフレーズ・キャッチコピーを考えたり推敲したりする際の視点になることを確認した。

2、3時間目の学級でキャッチフレーズを考える活動は、困難を極めた。生徒によって何を本校の特長と考えているか違い、好みの表現や語感も違うため、36名の生徒で合意形成をしながら進めていくことが難しく、教員の単元デザインや課題設定に大きな反省が残った。その話し合いの中でも生徒たちは、キャッチフレーズで伝えたいことの中心を明確にしようと意見を出し合ったり、使用する言葉がどのような印象を

与えるか小学生の立場になって検討したりと、目的や対象を意識して言葉を吟味していた。また、1時間目の気づきを生かして表現を工夫した案も出された。話し合いの末、どの学級も複数の候補の中から自分の意思で選択することになった。“個性”を中心にしたA組は「個性爆発」「個性の花火を咲かせよう」、「主体性」を中心にしたB組は「生徒が動く or 輝く、島附が動く or 輝く（ただし、生徒が輝く・島附が動く、の組み合わせは無いと共通理解されていた。）」、「追究」を中心にしたC組は「永遠の疑問」「答えはない、だから考える。」を候補とした。

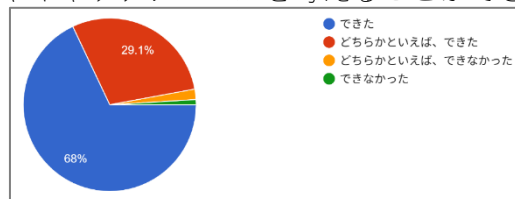
4～6時間目の個人でキャッチコピーを考える活動は、周りの生徒に意見を求めながらも自身の思いを大切に作成する様子が見られた。4時間目の始めは個人で候補を考えること、5時間目の始めは小集団(4人班)で互いの案を推敲することを指示し、それ以外は時間設定も含めて個人や小集団の判断に委ねた。一人でじっくり考える生徒もいれば教室を歩き回って意見を求める生徒もいて、学習形態は様々であったが、キャッチフレーズを考えた時と同様に、言葉を吟味し表現を工夫する姿が多く見られた。

7～9時間目は、生徒の個人用端末(iPad)を使用してポスターを制作し、互いの作品を鑑賞する活動を行った。本単元の学習の中心となるのは、キャッチフレーズ・キャッチコピーの作成と評価である。その目標から外れてしまわないよう、制作時の条件として、①画像を背景とする場合は、自身が校内で撮影した写真を使う②イラスト等を描いても良いが、既成の画像やAIで生成した画像は使用しない③載せる言葉はキャッチフレーズとキャッチコピーのみ、の3点を提示した。また、他の生徒の作品を鑑賞して良さを見つける活動や、自分の作品について振り返りを行うときも、キャッチフレーズとキャッチコピーに対するものを中心に記述するようにした。

4. 単元末の振り返りアンケート結果

以下は、単元末に実施した振り返りアンケートの結果の一部である。

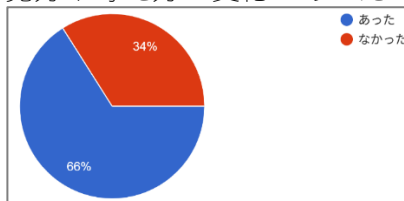
(1) 言葉や表現にこだわってキャッチコピーやキャッチフレーズを考えたことができたか。



○私の最終案は「あなたにしかない種育てませんか。」だが、最初の案としては、「あなたにしかない種植えませんか。」であった。途中、「あなた」を「君」にしてもいいなと思ったが、小学生は対等であるような言い方が良いと思ったので変更はしなかった。「植えませんか」から「育てませんか」にした理由は、個性を表す種は小学校でしっかりと植えられていて、そこから島附に来ることで、より育てられる！成長させられる！ということを伝えたいなと思ったから。このようにたくさんの変更を経てこのキャッチコピーを考えることができたから。

○どうしたら短い言葉で島附を伝えられるかを一生懸命考えたけれど、「絶対にこれ！！」というほどじっくりきているわけではないから。

(2) この単元の学びを通して、自身のものの見方や考え方に変化があったか。



○日常で見かける言葉の一つ一つにも、いろいろな工夫とか考えが詰まってるんだな、という思いの変化があった。

○「ここは少し変えるだけでこう変わる」「これはここがこうだからこう感じる」と、部分的にみることができるようになったし、人がどう感じるかを考えられるようになったと思う。

○言葉の捉え方が人によって違うこと。年齢も関係しているし、価値観的な違いもあった。

○附属島田中の良さや特徴を再認識できて、言葉で直接考えることは大事だなと思った。